

1. 特定本邦航空運送事業者（※）に関する航空輸送サービスに係る情報公開（令和5年1月～令和5年3月）のポイント

※特定本邦事業者

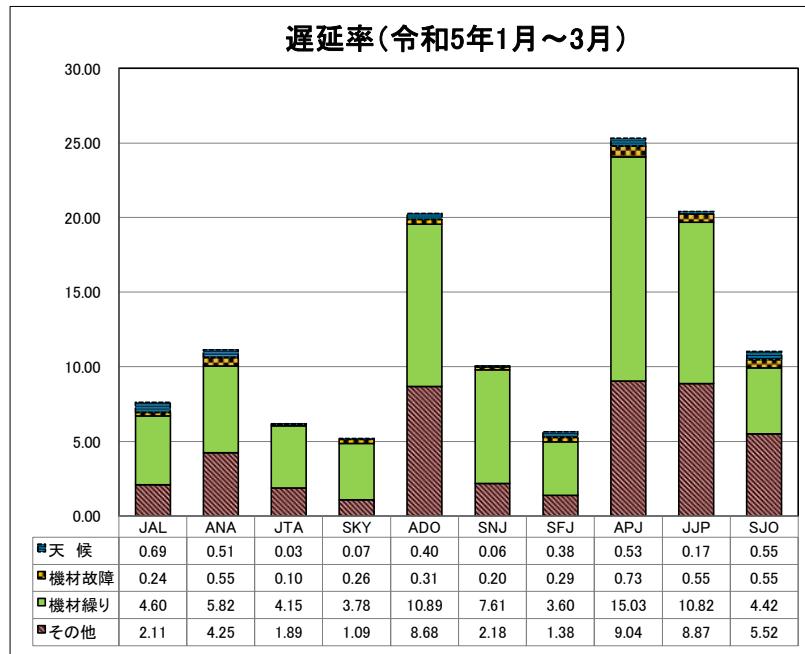
- 日本航空:JAL
- 全日本空輸:ANA
- 日本トランസ航空:JTA
- スカイマーク:SKY
- AIRDO:ADO
- ソラントエフ:SNJ
- スターフライヤー:SFJ
- Peach Aviation:APJ
- ジェットスター・ジャパン:JJP
- スカーリング・ジャパン:SJO

1. 輸送サービスの比較等に関する情報

（1）遅延率（令和5年1月～令和5年3月）

当期実績	前年度同期実績	前年度同期との比較
10.75%	6.57%	4.18ポイント増加

※「遅延便」とは、出発予定時刻より15分を超えて出発した便をいう。



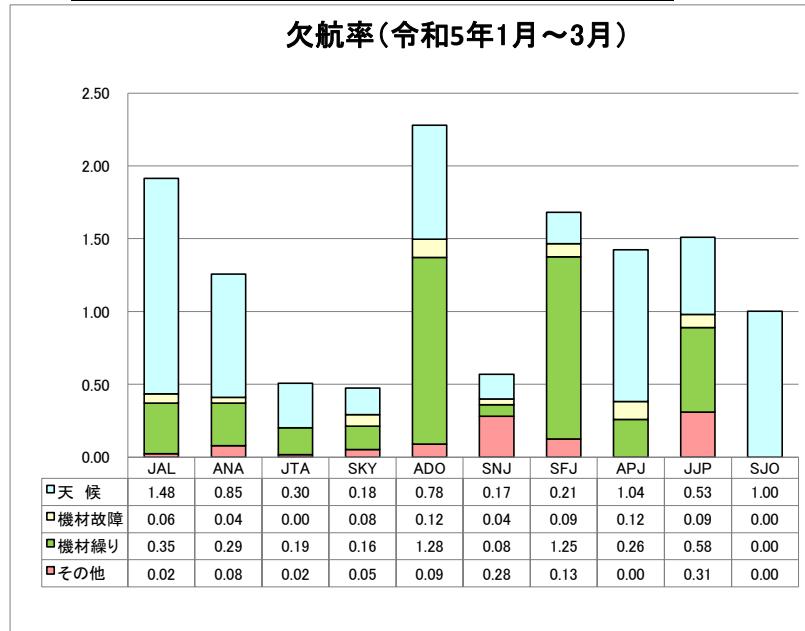
※対象となっている路線が各航空会社によって異なっており、路線毎・季節毎に欠航・遅延の特性が異なることから、単純な比較には適さない。(夏期は沖縄路線等で台風の影響を受けやすく、冬季は北国等で積雪の影響を受けやすいなど。)

※複数の要因がある場合、もっとも影響の大きい事由に含む。

※機材繰りとは、前便が何らかの理由で遅延運航になり引き続く次便が遅延運航となる場合をいう。

（2）欠航率（令和5年1月～令和5年3月）

当期実績	前年度同期実績	前年度同期との比較
1.44%	2.09%	0.65ポイント減少



※対象となっている路線が各航空会社によって異なっており、路線毎・季節毎に欠航・遅延の特性が異なることから、単純な比較には適さない。(夏期は沖縄路線等で台風の影響を受けやすく、冬季は北国等で積雪の影響を受けやすいなど。)

※複数の要因がある場合、もっとも影響の大きい事由に含む。

※機材繰りとは、前便が何らかの理由で遅延運航・欠航になり引き続く次便が欠航となる場合をいう。

2. 運賃関連情報

(1) 輸送実績（令和5年1月～令和5年3月）

項目	当期実績	前年度同期実績	前年度同期との比較
平均搭乗区間距離	962km	948km	1.5%増
輸送人員	2377万1773人	1275万5457人	86.37%増
輸送人キロ	228億6187万6千km	120億9236万0千km	89.06%増
旅客収入	3131億68百万円	1678億33百万円	86.6%増
輸送人員あたり 旅客収入	13.2千円	13.2千円	0.12%増
輸送人キロあたり 旅客収入	13.7円	13.9円	1.3%減

(2) 路線別データ（令和5年1月～令和5年3月）

① 旅客数

上位5路線は次のとおり。

	当期実績	前年度同期実績
1位 東京－福岡	208万2667人	(117万6912人)
2位 東京－新千歳	204万0423人	(106万8436人)
3位 東京－那覇	154万5591人	(71万7788人)
4位 東京－大阪	122万4976人	(77万5061人)
5位 東京－鹿児島	59万5968人	(30万2260人)
全 路 線	2330万0710人	(1254万6581人)

② 利用率

上位5路線は次のとおり。

	当期実績	前年度同期実績
1位 札幌－那覇	88.7% (63.3%)	30.0% (17.8%)
2位 仙台－那覇	87.6% (48.3%)	37.2% (24.8%)
3位 広島－那覇	86.1% (39.7%)	37.9% (29.4%)
4位 成田－鹿児島	85.4% (67.2%)	38.8% (41.6%)
5位 下地島－東京	85.1% (46.4%)	38.8% (-)
全 路 線	69.3% (48.0%)	69.3% (48.0%)

3. フレックストラベラー制度（※）に関する情報

令和5年1月～3月における、フレックストラベラー制度を有する航空会社の全輸送人員に対する不足座席数の割合(1万人あたり)が高かった特定本邦上位3社は次のとおり。

（※）オーバーセールス（提供座席数を上回る予約客を受け付けること）の発生が判明した時点で、自主的に搭乗を取りやめる旅客を航空会社が幅広く募集する。

	全輸送人員に対する不足座席数の割合 (1万人あたり)	
	当期実績	前期実績
① スターフライヤー	1.60人	0.00人
② 全日本空輸	1.06人	0.34人
③ AIRDO	1.05人	0.00人
全社平均	0.63人	0.14人

※今回の公開项目的詳細、及び過去の公開資料につきましては、国土交通省のホームページ上にてご確認頂けます。

(URL)http://www.mlit.go.jp/koku/15_bf_000727.html